

港区一般廃棄物処理基本計画みなとクリーンプラン21（第2次） 中間年度改訂版 数値目標の達成状況

1 循環型社会の形成に係る数値目標

	年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度 (最終目標)	
数値目標1-① 総排出量	実績値 (t)	180,638	180,415	179,221	—	→ 2ページ 1-① 総排出量
	目標値 (t)	172,235	169,108	165,981	159,731	
	目標達成率 (%)	95.1	93.3	92.0	—	
ご み	実績値 (t)	158,221	158,218	156,868	—	
	目標値 (t)	147,713	143,600	139,487	131,257	
	目標達成率 (%)	92.9	89.8	87.5	—	
区収集ごみ	実績値 (t)	53,258	53,580	53,848	—	
	目標値 (t)	48,408	46,044	43,680	38,949	
	目標達成率 (%)	90.0	83.6	76.7	—	
可燃ごみ	実績値 (t)	50,246	50,425	50,665	—	→ 2ページ 1-① (ア) 区収集/可燃ごみ
	目標値 (t)	45,054	42,852	40,650	36,242	
	目標達成率 (%)	88.5	82.3	75.4	—	
不燃ごみ	実績値 (t)	1,500	1,530	1,485	—	→ 2ページ 1-① (イ) 区収集/不燃ごみ
	目標値 (t)	1,546	1,509	1,472	1,397	
	目標達成率 (%)	103.0	98.6	99.2	—	
粗大ごみ	実績値 (t)	1,512	1,624	1,698	—	→ 2ページ 1-① (ウ) 区収集/粗大ごみ
	目標値 (t)	1,808	1,683	1,558	1,310	
	目標達成率 (%)	116.4	103.5	91.0	—	
持込ごみ量	実績値 (t)	104,963	104,638	103,020	—	
	目標値 (t)	99,305	97,556	95,807	92,308	
	目標達成率 (%)	94.3	92.7	92.5	—	
資 源	実績値 (t)	22,417	22,197	22,353	—	
	目標値 (t)	24,522	25,508	26,494	28,474	
	目標達成率 (%)	91.4	87.0	84.4	—	
区による資源回収	実績値 (t)	16,398	16,346	16,711	—	
	目標値 (t)	17,765	18,433	19,101	20,440	
	目標達成率 (%)	92.3	88.7	87.5	—	
集積所 資源回収 <small>※イベント回収を 含む</small>	実績値 (t)	15,052	14,924	15,354	—	
	目標値 (t)	16,826	17,424	18,022	19,217	
	目標達成率 (%)	89.5	85.7	85.2	—	
拠点回収	実績値 (t)	61	69	81	—	
	目標値 (t)	124	158	192	262	
	目標達成率 (%)	49.2	43.7	42.2	—	
不燃ごみ・ 粗大ごみ からの 資源回収量	実績値 (t)	1,285	1,353	1,276	—	
	目標値 (t)	815	851	887	961	
	目標達成率 (%)	157.7	159.0	143.8	—	
集団回収	実績値 (t)	6,019	5,851	5,643	—	
	目標値 (t)	6,757	7,075	7,393	8,034	
	目標達成率 (%)	89.1	82.7	76.3	—	
数値目標1-② 資源化率 (資源回収量/ 持込ごみを除く総排出量)	実績値 (%)	29.6	29.3	29.3	—	→ 3ページ 1-②資源化率 総排出量(持込ごみ を除く)のうち 資源化される割合
	目標値 (%)	33.6	35.6	37.8	42.2	
	目標達成率 (%)	88.1	82.3	77.5	—	
数値目標1-③可燃ごみ量	実績値 (t)	155,209	155,063	153,685	—	→ 3ページ 1-③ 可燃ごみ量
	目標値 (t)	144,359	140,408	136,457	128,550	
	目標達成率 (%)	92.5	89.6	87.4	—	

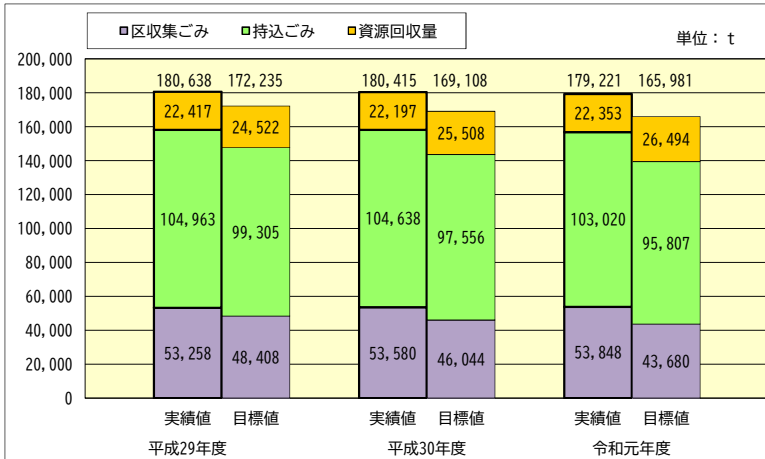
※ 目標達成率は、(実績値/目標値)により求めた値(%)をもとに、目標達成の100%を基準として次のとおり数値化しています。

①削減を目標としている項目(総排出量、ごみ量)では「目標値未滿(目標達成)」>100>「目標値超(目標未達成)」
計算式：{1-(実績値-目標値)÷目標値}×100

②増加を目標としている項目(資源回収量、資源化率)では「目標値超(目標達成)」>100>「目標値未滿(目標未達成)」
計算式：実績値÷目標値×100

※ 目標値は、平成27年度の実績値と平成33年度(最終目標)の目標値との按分値としています。

1-①総排出量（港区から出されるごみと資源の総量）



令和元年度の総排出量は179,221tで、目標値の165,981tに届かず、目標達成率は92.0%でした。区収集ごみ量は平成29年度から増加しましたが、持込ごみ量が減少したため、総排出量も減少しています。

【ごみ量】

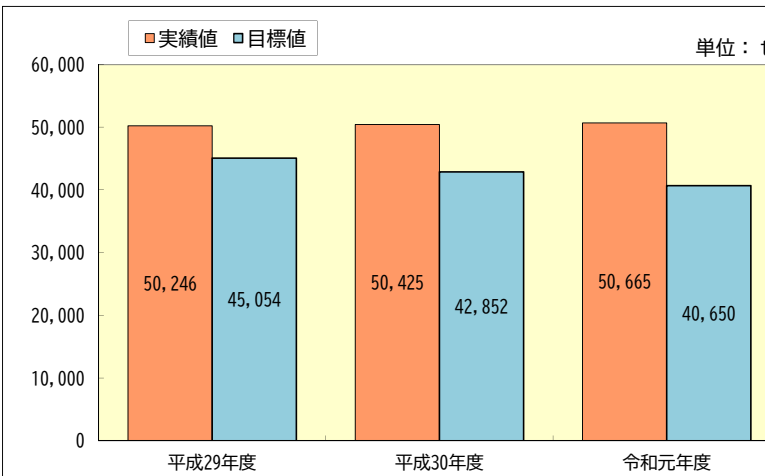
令和元年度のごみ量は156,868tで、目標値の139,487tに届かず、目標達成率は87.5%でした。
 目標達成率は平成30年度の89.8%から2.3ポイント低下しています。
 持込ごみ量は23区全体で0.4%減少しており、11区で増加しています。港区は1.5%減少しています。

【資源回収量】

令和元年度の資源回収量は22,353tで、目標値の26,494tに届かず、目標達成率は84.4%でした。目標達成率は平成30年度の87.0%から2.6ポイント低下しています。
 資源回収量の伸び悩みには、区による集積所回収及び集団回収の実績が大きく影響しています。

区収集ごみ量を分別区分ごとに表すと、次のとおりとなります。

1-① (ア) 区収集/可燃ごみ

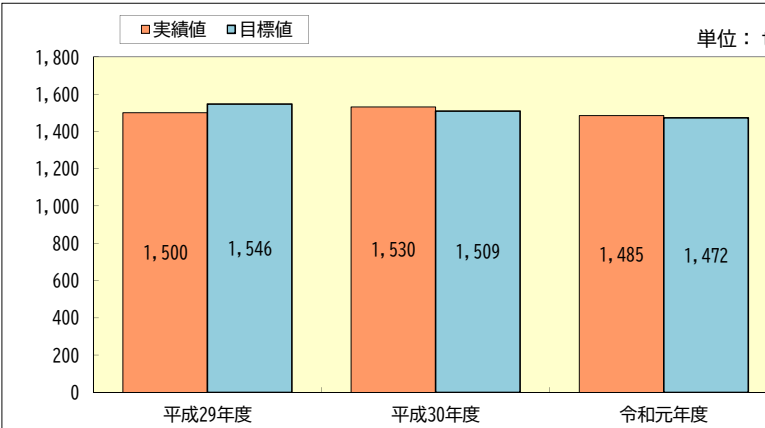


令和元年度の可燃ごみ量（区収集）は50,665tで、平成30年度から増加しました。目標達成率は75.4%で、平成30年度の82.3%から6.9ポイント低下しています。
 可燃ごみ量は、区収集ごみ全体の約9割を占めていることから、可燃ごみの削減が十分に進んでいないことが、区収集ごみ量の目標を達成できなかった最大の要因です。
 平成30年度に実施した「ごみ排出実態調査」によると、可燃ごみ中には、25.7%の資源が混入していることが分かりました。平成27年度調査の25.9%からは0.2ポイント改善しましたが、依然として資源の混入率が高いことが、可燃ごみの削減が進捗していない要因の一つとなっています。
 また、区の人口が毎年度3,000人程度増加し続けていることも、要因の一つと考えられます。

可燃ごみの削減を進めるためには、主に次の施策の実効性を高めていく必要があります。

- 施策分類 I-i 普及啓発・情報提供の全ての施策
- 施策分類 I-ii 12 家庭系ごみ量の「見える化」事業の実施
- 施策分類 I-iii 13 家庭での生ごみの水切り・堆肥化の促進
- 施策分類 II-i 17 区収集ごみの適正排出の徹底

1-① (イ) 区収集/不燃ごみ

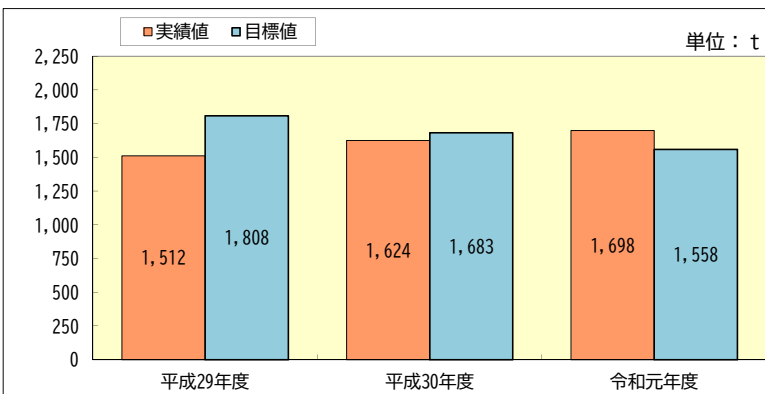


令和元年度の不燃ごみ量は1,485tで、目標値の1,472tに届かず、目標達成率は99.2%でした。
 なお、区は平成27年3月からごみ収集体制の見直しにおいて、不燃ごみの小型プレス車による収集から軽トラックでの収集に変更し、平成30年4月から、これまで大型プレス車で収集していた大規模マンションについて、軽トラックでの収集へ変更したことにより、区全体で金属等のピックアップ回収が可能となり、更なる不燃ごみの削減と資源のリサイクルの推進を図っています。
 また、障害者就労支援施設との連携により、平成30年4月から不燃ごみ・粗大ごみから回収したコード類を銅線とビニールに剥離する作業の業務委託を開始しています。

不燃ごみの一層の削減を進めるためには、主に次の施策の実効性を高めていく必要があります。

- 施策分類 II-i 17 区収集ごみの適正排出の徹底
- 施策分類 II-ii 23 不燃ごみ・粗大ごみ中の金属等、木製粗大ごみの資源化

1-① (ウ) 区収集/粗大ごみ

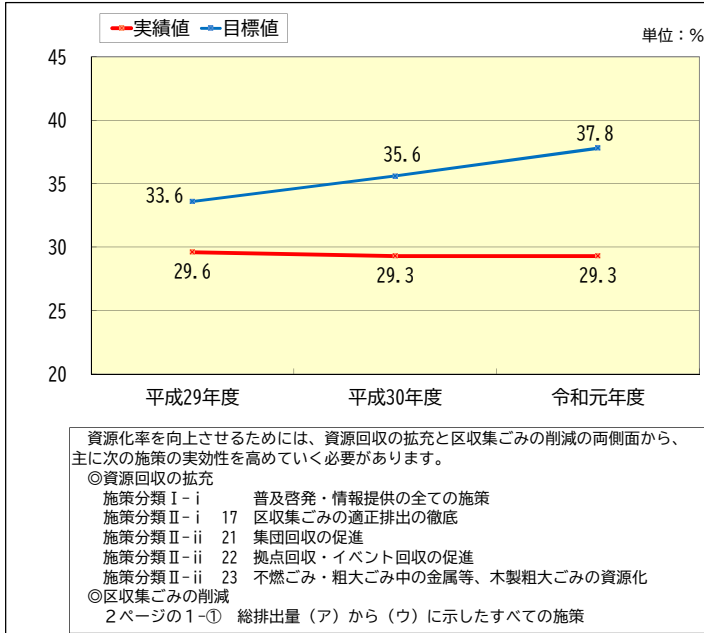


令和元年度の粗大ごみ量は1,698tで、平成30年度から更に増加し、目標値の1,558tに届きませんでした。
 平成28年4月から、粗大ごみ中の木製粗大ごみの資源化を開始し、粗大ごみ量の減少に努めています。

粗大ごみ量は、区収集ごみ全体の約3%であり、区収集ごみ量に及ぼす影響は大きくありませんが、削減を進めるために、主に次の施策の実効性を高めていく必要があります。

- 施策分類 I-iii 16 家具等のリユースの促進
- 施策分類 II-ii 23 不燃ごみ・粗大ごみ中の金属等、木製粗大ごみの資源化

1-②資源化率（総排出量（持込ごみを除く）のうち資源化される割合）



令和元年度の資源化率は29.3%で、令和30年度と同じ値でした。目標達成率は77.5%でした。区収集ごみが268t増加したものの、資源回収量も156t増加したため、資源化率に変動がありませんでした。

【区による資源回収】

区による資源回収量は、平成27年度（16,427t）以降、横ばいの傾向にあり、令和元年度の回収量は16,711tとやや増加したものの、目標値の19,101tに届かず、目標達成率は87.5%となっています。

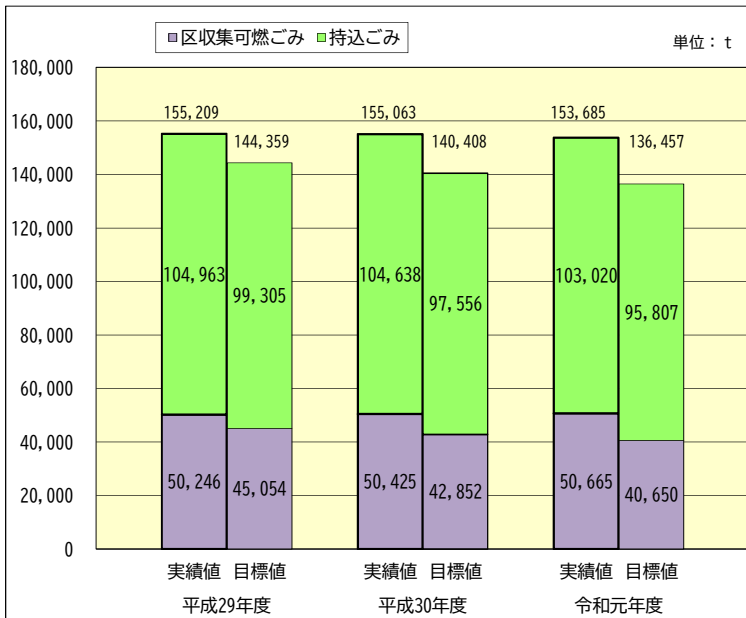
資源回収量は集積所回収の実績が影響しており、平成30年度の14,924tから令和元年度は15,354tに増加しています。古紙の買取価格の下落により、集団回収から区による回収への移行が増加した影響が考えられます。

【集団回収】

令和元年度の集団回収量は5,643tで、平成28年度（6,154t）から減少し続けています。目標値の7,393tに届かず、目標達成率は76.3%となっています。

古紙の買取価格の下落により、回収する業者が見つからず、集団回収から撤退する団体の増加や、インターネットや電子書籍等の普及による新聞や雑誌離れによる回収量が減少が影響しているものと考えられます。

1-③可燃ごみ量



令和元年度の可燃ごみ量は153,685tで、平成30年度から1,378t減少しました。目標値の136,457tに届かず、目標達成率は87.4%となっています。目標達成率は平成30年度の89.6%から2.2ポイント低下しています。

【区収集可燃ごみ】

令和元年度の可燃ごみ量は50,665tで、目標値の40,650tに届かず、目標達成率は75.4%でした。（詳細は2ページの①（ア）区収集/可燃ごみ のとおり）

【持込ごみ】

令和元年度の持込ごみ量は103,020tで、平成30年度から1,618t減少しましたが、目標値の95,807tに届いていません。目標達成率は92.5%で、平成30年度の92.7%から0.2ポイント低下しています。なお、持込ごみ量は、平成24年度から増加傾向にありましたが、平成30年度から減少しています。令和元年度は、本区を含めて12区で減少しました。

区収集ごみの削減を進めるため、主に2ページの1-①（ア）で示した施策の実効性を高め、持込ごみの削減を進めるため、主に次の施策の実効性を高めていく必要があります。

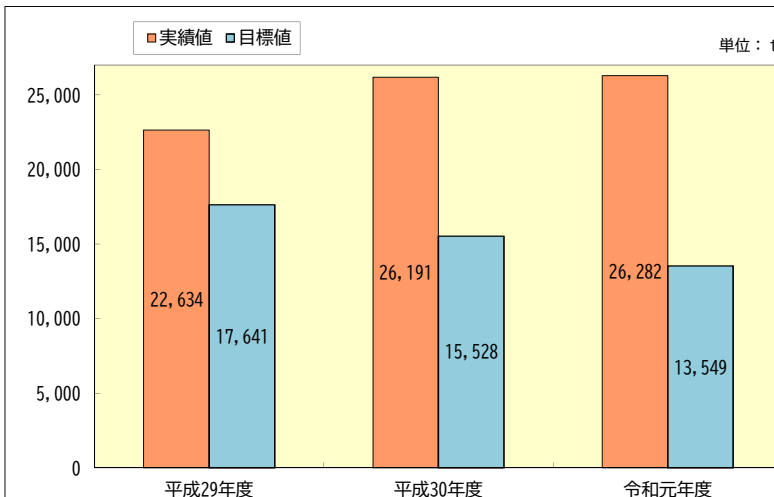
- 施策分類 I-i 普及啓発・情報提供のうち事業者向けの施策
- 施策分類 I-ii 10 ごみ減量優良事業者等への表彰制度の実施
- 施策分類 I-iii 14 事業系生ごみの発生抑制
- 施策分類 II-i 18 事業用大規模建築物所有者等への指導等強化
- 施策分類 II-ii 20 事業系ミックスペーパー・生ごみの資源化促進

2 低炭素社会の形成に係る数値目標

数値目標2-① 温室効果ガス排出量		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度 (最終目標)
	実績値 (t)	22,634	26,191	26,282	—
	目標値 (t)	17,641	15,528	13,549	9,992
	目標達成率 (%)	71.7	31.3	6.0	—

目標達成率は、各年度における温室効果ガス排出量の目標値を100とした場合に、実績値が寄与した割合を示しています。算出方法は以下のとおりです。

$$200 - (\text{実績値} \div \text{目標値} \times 100) = \text{目標達成率} (\%)$$



令和元年度の温室効果ガス排出量は26,282tでした。目標値の13,549tに大きく届かず、目標達成率は6%となっています。目標達成率は、平成30年度の31.3%から25.3ポイント低下しています。

可燃ごみの削減が進んでいないこと、区収集可燃ごみの中のプラスチックの割合が16.8%（平成30年10月ごみ排出実態調査）と改善されていないことが影響しています。（平成27年10月ごみ排出実態調査では14.3%）

可燃ごみ中のプラスチックには、汚れの付着がなく資源化が可能なものが含まれており、分別排出が徹底されていません。

※温室効果ガス排出量の算出は「市町村における循環型社会づくりに向けた一般廃棄物処理システムの指針（環境省）に基づき算出しています。

※平成29年度は「平成27年度ごみ排出実態調査」による組成率、平成30年度及び令和元年度は「平成30年度ごみ排出実態調査」による組成率を適用しています。

可燃ごみの削減及び資源化が可能なプラスチックの分別排出を進めるためには、主に2ページの1-①（ア）及び3ページの1-③で示した施策の実効性を高めていく必要があります。

【各主体別の取組のめやす】

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度 (最終目標)
区 民	1人1日 当たりのごみ量	実績値 (g)	362	390	387
		目標値 (g)	330	307	285
		目標達成率 (%)	90.3	73.0	64.2
少量排出 事業者	1日1事業所 当たりのごみ量	実績値 (g)	1,746	1,462	1,417
		目標値 (g)	1,584	1,459	1,338
		目標達成率 (%)	89.8	99.8	94.1
多量排出 事業者	1日1事業所 当たりのごみ量	実績値 (g)	25,063	24,340	23,644
		目標値 (g)	23,000	22,000	21,000
		目標達成率 (%)	91.0	89.4	87.4

→ 4ページ
①区民の1人1日当たりのごみ量

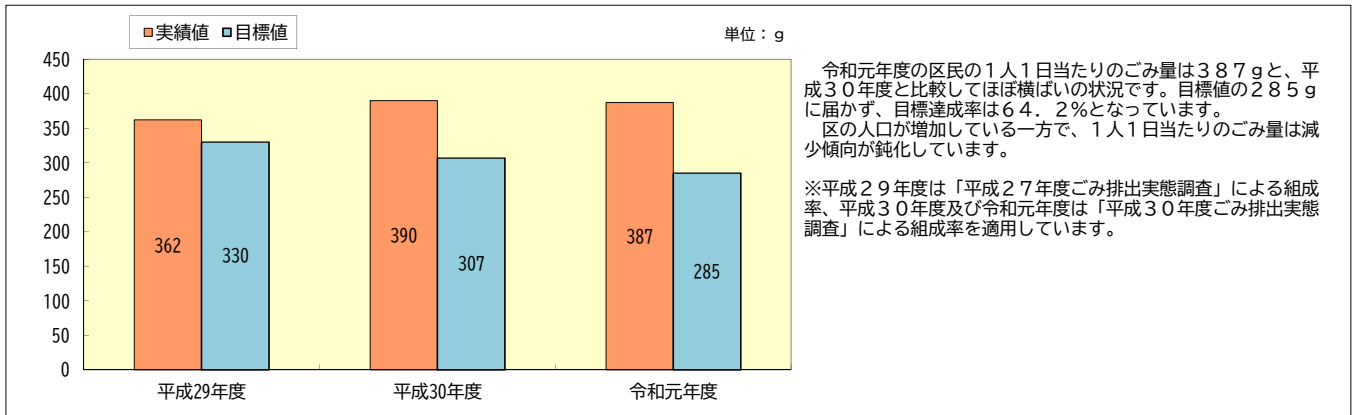
→ 4ページ
②少量排出事業者の1日1事業所当たりごみ量

→ 4ページ
③多量排出事業者の1日1事業所当たりごみ量

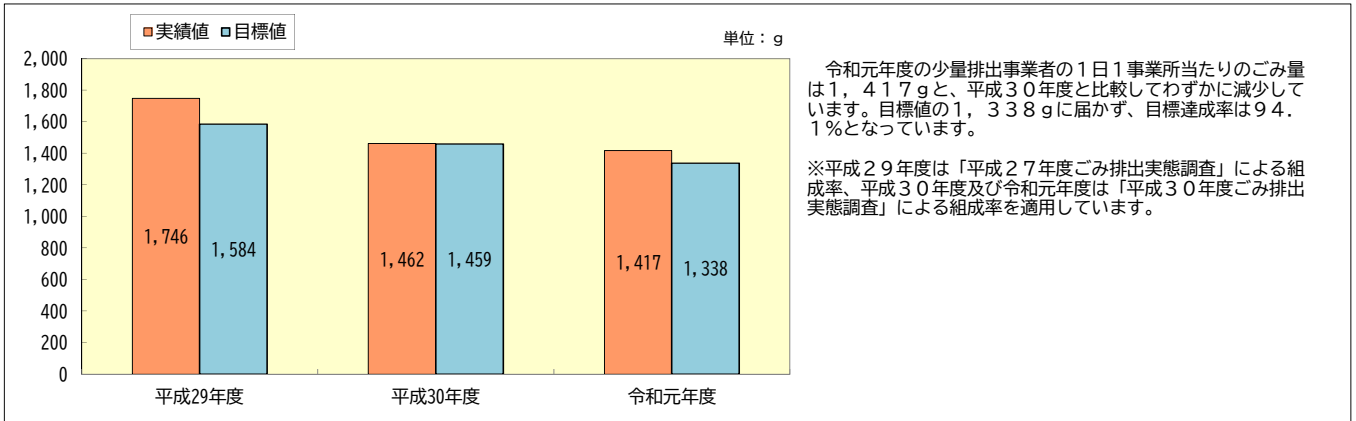
算出基礎とした人口、事業所数

	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	備考
居住人口	人	253,639	257,426	260,379	◎居住人口は、各年度の1月1日時点の人口 ◎各年度の全事業者数は、平成24年と平成26年の経済センサスにおける値の増加割合が継続するものとして算出。 ◎多量排出事業者数は、一般廃棄物収集運搬業者にごみ処理を委託している事業者数(各年度8月現在)。 ◎少量排出事業者数は、全事業者数から多量排出事業者数を差し引いた数。
全事業者数	事業所	42,397	43,501	44,663	
少量排出事業者	事業所	30,968	31,723	32,758	
多量排出事業者	事業所	11,429	11,778	11,905	

①区民の1人1日当たりのごみ量



②少量排出事業者の1日1事業所当たりごみ量



③多量排出事業者の1日1事業所当たりごみ量

